

東日本大震災 関連情報（第 27 報）

平成 24 年 2 月 15 日
全国老人クラブ連合会

●東日本大震災に関する、老人クラブ関連の情報をお伝えします

○ 宮城県岩沼市老連における復興への取り組み

岩沼市老連における取り組み事例が届きました。仮設住宅に福袋を配布した様子は地元新聞「河北新報」に掲載されましたので、併せて添付します。

（別紙「宮城県岩沼市老連報告」参照）

●「被災県別サポート班」幹事会議の開催

「被災県別サポート班」体制の幹事 5 老連による会議を、2 月 6 日に開催しました。これまでの支援活動について振り返るとともに、今後の救援拠金や支援のあり方について意見交換されました。

●支援活動

○ お礼を込めて、灯籠を手作りしています。 [秋田県 五城目町老連]

五城目町老連は、震災時に岩手県大槌町のホテルに滞在していて、ホテルや住民の協力で無事に帰ることができました（関連情報第 3 報参照）。大槌町へ感謝の思いを伝えるため、手作り灯籠を贈ろうと子どもをはじめ町住民の協力を得て 200 個を目標に作成しています。2 月 24 日に持参して、現地の老人クラブやホテル従業員へ贈る予定です。

（別紙「秋田魁新報」参照）

○ 被災地へ思いをはせて、お雛様を作りました。 [岡山県倉敷市 真備地区老連女性部]

新聞報道等を通じて被災地の方々の仮設住宅でのご不便の様子を見るにつけ、女性委員で何か支援できることはないか思い続けていました。そして少しでもほっとした、穏やかな時間をもつことができたらと、お雛様を作りました。材料は手持ちの着物や見本地を持ち寄って、一針一針に心を込めて作りました。

完成したお雛様 100 セットは、福島県老連をとおして福島市、二本松市の仮設住宅に住む子どもたち、高齢者へ届けられました。 （別紙「山陰新聞」参照）